

# 三谷興業、自動車整備に注力

## 運送会社の2024年問題に対応

### 担当社員倍増で「外注」獲得へ

工業薬品の製造販売などを手掛ける三谷興業(本社名古屋市中区錦1の8の8、三谷道郎社長、電話052・201・3311)は、自動車整備事業を強化する。東海市に2022年、稼働した大型車向け整備工場で従事する社員を稼働時に比べ倍増した。来期(26年3月期)も社員を拡充する計画だ。残業時間の上限規制でトラックドライバー不足が懸念される中、トラックの点検・整備を担うことで、運送会社の整備部門の人員配置転換などにつなげてもらう。(松田理恵子)



三谷道郎社長

同社の「東海工場」は12億円を投じ、名古屋市の旧工場を東海市名和町に移転した。敷地面積は約1万1千平方メートル。建屋は鉄骨造り2階建てで、延べ床面積は3332平方メートル。フルトレーラーも受け入れ可能な大型トラック車検3レーンのほか、大型トラック点検・修理4レーン、小型トラックなどの車検・点検・修理4レーンを備えている。



大型トラックの車検3レーンと点検・修理4レーンを備える東海工場



東海工場の外観

同工場に従事する社員は43人。整備担当や自動車整備士資格者などを工場立ち上げ当時に比べ、倍増させた。23年度は車検1530台、点検2400台など計7800台を受け入れた。「2024年問題」が運

送業の喫緊の課題となる中、トラック整備などを自社で担うことをアピールし、運送会社の整備の人員をドライバーに振り向けることなどを提案する。

三谷社長は「2024年問題で苦労している業界に、当社がどう対応できるか考えた。大型車面の点検・修理をアウトソーシングできることをアピールしたい」と話している。

同社は1962年創業。排水処理に使用される石灰スラリーと工業薬品の製造販売、工場排出副産物のリサイクルが売上高構成比の75%を占める。24年3月期の売上高は38億円。今期は40億円を目指す。

